文教福祉常任委員会

令和2年6月19日（金曜日）

付議事件

《付託議案》

議案第 4号 旭市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 32号 令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について

《付託請願》

請願第 2号 義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書採択に関する請願

請願第 3号 国における2021年度教育予算拡充に関する意見書採択に関する請願

出席委員（6名）

委員長 米本 弥一郎

副委員長 片桐 文夫

委員 景山 岩三郎

委員 伊藤 房代

委員 宮内 保

委員 林 晴道

欠席委員（なし）

委員外出席者（1名）

議長 伊藤 保

説明のため出席した者（14名）

教育長 諸持 耕太郎

学校教育課長 加瀬 政吉

社会福祉課長 椎名 隆

高齢者福祉課長 赤谷 浩巳

子育て支援課長 石橋 方一

保険年金課長 在田 浩治

庶務課長 杉本 芳正

生涯学習課長 八木 幹夫

体育振興課長 柴 栄男

健康管理課長 遠藤 茂樹

環 境 課 長 高 根 浩 司
そ の 他 担 当 員 3 名
職

事務局職員出席者

事 務 局 長 花 澤 義 広 事務局次長 向 後 哲 浩
副 主 幹 黒 柳 雅 弘

開会 午前10時 0分

○委員長（米本弥一郎） おはようございます。

大変ご多用のところ、また雨天の中、ご苦労さまでございます。

委員の皆さん、職員の皆さんには新しい生活様式を実践していただき、ご自身の健康と地域経済を守っていただけるよう、お願い申し上げます。

ここで、委員会を開会する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は6名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開会いたします。

本日、伊藤議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いします。

○議長（伊藤 保） おはようございます。

委員の皆さん、大変に雨の中ご苦労さまでございます。

本日は、付託いたしました2議案と請願2件について、審査をしていただくことになっております。

どうぞ慎重なるご審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

○委員長（米本弥一郎） ありがとうございます。

議案等説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して諸持教育長よりご挨拶をお願いいたします。

諸持教育長。

○教育長（諸持耕太郎） 皆さんおはようございます。

本日は、文教福祉常任委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

日頃より委員の皆様には多方面にわたりご指導、ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日の委員会に審査をお願いいたします議案は、議案第4号、旭市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてと、議案第32号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、所管事項の2議案で

ございます。

執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しまして、簡潔明瞭に答弁するよう努めてまいりますので、何とぞ全議案可決くださいますようお願い申し上げます。

また、本日は人事異動後初めての委員会でございますので、文教福祉常任委員会所管の担当課長の紹介をさせていただきたいと思いますが、委員長、よろしいでしょうか。

- 委員長（米本弥一郎） はい、お願いいたします。
- 教育長（諸持耕太郎） それでは、順次これより自己紹介をさせますので、よろしくお願いいたします。
- 子育て支援課長（石橋方一） 子育て支援課長の石橋です。2年目になります。よろしくお願いいたします。
- 学校教育課長（加瀬政吉） 学校教育課長の加瀬政吉と申します。よろしくお願いいたします。
- 保険年金課長（在田浩治） 保険年金課長の在田です。よろしくお願いいたします。
- 庶務課長（杉本芳正） 庶務課長の杉本と申します。よろしくお願いいたします。
- 健康管理課長（遠藤茂樹） 健康管理課2年目になります。遠藤です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 体育振興課長（柴 栄男） 体育振興課長、柴と申します。よろしくお願いいたします。
- 社会福祉課長（椎名 隆） 社会福祉課長、椎名隆と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 高齢者福祉課長（赤谷浩巳） 高齢者福祉課長、赤谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 生涯学習課長（八木幹夫） 生涯学習課長の八木と申します。2年目となります。よろしくお願いいたします。
- 環境課長（高根浩司） 環境課長の高根と申します。今年1年目でございます。よろしくお願いいたします。
- 委員長（米本弥一郎） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（米本弥一郎） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る6月11日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第4号、旭市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、議案第32号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、本委員会所管事項についての2議案であります。

初めに、議案第4号について、補足説明がありましたらお願いします。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 本会議での説明のとおりですので、補足説明はございません。

よろしく願いいたします。

○委員長（米本弥一郎） 担当課の説明は終わりました。

議案第4号について質疑がありましたらお願いいたします。

片桐委員。

○委員（片桐文夫） 本会議場でも聞いたんですけども、この内容、どういうふうが変わって、

どのようなメリットがあるのか。試験とかそんなのが変わったのかな、これは。その辺ちょっともう少し詳しく教えていただければ。お願いいたします。

○委員長（米本弥一郎） 片桐委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 今回の内容についてですが、この研修の問題なんですけども、

今までは都道府県知事、それから指定都市の長のみでありました実施主体に、中核市の長を追加しています。中核市というと、千葉県でいいますと、船橋市、柏市ということになります。これは研修の機会を増やすことにより、より多くの方が研修を受けて、支援員として資格をもらえると、このようなことになっております。

○委員長（米本弥一郎） 片桐委員。

○委員（片桐文夫） 分かりました。

そうしますと、今まで千葉県で行っていた4日間でしたっけ、研修を、船橋市と柏市でできるというような内容ですね。

その中で、先生方に教える内容とかなんとかというのは今までと変わらず同じ内容を行うということですかね。

○委員長（米本弥一郎） 片桐委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 研修の内容は同じでございます。ただ、研修を受ける機会が増えたということで、より多くの方が研修を受けるチャンスがあると、こういうことでございます。

○委員長（米本弥一郎） 片桐委員。

○委員（片桐文夫） ありがとうございます。

それでは、これからますます旭市の放課後児童クラブのほうが、先生方の指導に対しても統一を取って、運営も楽になっていくと考えてよろしいですかね。

○委員長（米本弥一郎） 片桐委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 現在この支援員と呼ばれる方は、この研修を終了した方になっております。それから、補助員と呼ばれる方もいるんですけど、この補助員が研修を受けることによって支援員となり、より多くの業務を担うことができるようになると、こういうことでございます。

○委員長（米本弥一郎） ほかに質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

続いて、議案第32号中の所管事項について、補足説明がありましたらお願いします。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（石橋方一） 議案第32号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決について、子育て支援課所管の補足説明を申し上げます。

補正予算書の8ページをお願いいたします。

歳出になります。

3款3項6目保育所費、説明欄1の保育環境改善等事業827万3,000円ですが、保育所等が新型コロナウイルス感染拡大防止のために必要な経費に対して1施設当たり50万円を上限として国が助成するものです。

10節需用費、消耗品費577万3,000円は、公立保育所1施設当たり平均44万円相当分の感染予防のための消耗品として、子ども用のマスク及び大人用のマスクを合わせて6万3,000枚分、各施設へ手指消毒液及び室内消毒液を合わせて平均21本ずつ、非接触体温計を各3本ずつ購入するため計上するものです。

18節負担金補助金及び交付金250万円は、民間保育所1施設当たり50万円を子ども用マス

ク及び消毒液、その他感染予防のための物品の購入費、施設等の消毒業務委託料として補助金を交付するため計上するものです。

補正予算書の7ページをお願いいたします。

歳入になります。

14款2項2目2節児童福祉費国庫補助金、説明欄1の保育対策総合支援事業費補助金827万3,000円ですが、事業費の全額を国が負担いたします。

以上で、議案第32号、子育て支援課所管の補足説明を終わりにします。

○委員長（米本弥一郎） 担当課の説明は終わりました。

議案第32号について質疑がありましたらお願いいたします。

林委員。

○委員（林 晴道） それでは伺いますが、保育環境改善等事業、各施設に対して50万円の補助金が出るということで、マスク及び消毒液ということなんですが、これ児童がどのぐらいの間対応できるぐらいの量がこの金額で確保できているのか。

それから、使い方なんですが、生後間もない子どもたちからが対象となろうかと思imasuので、その使用方法がどのような取扱いになっているのかを伺いたいと思imasu。

○委員長（米本弥一郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（石橋方一） ただいまの林委員の質問に対して回答いたします。

どのぐらいの期間の対応、期間を見て用意しているかというご質問についてですが、まず、子ども用につきましては対象を3歳以上児ということで考えております。そうしますと、公立、干潟保育所も含めて約540人の児童がいらっしゃいます。子どもにつきまして、児童につきまして、1人1箱、50枚入りの1箱を渡して、期間といたしましては来年の3月までということで考えております。

また、職員、保育士等につきましては、職員約200名います。200名で月20枚マスクを使うということで、そのほか足りない分はアベノマスクを使ったり自家製の布マスクを使ったりということで考えております。やはり来年の3月までということで枚数を3万6,000枚ということで考えております。

あと、使い方でございますが、子どもにつきましては先般の議案質疑で答弁しましたとおり、2歳以下の子どもについては熱中症や呼吸器疾患とか、そういったおそれがあるということで、使用は控えていただいていますので、今回は配られません。3歳以上の子どもにつ

きまして、やはりそういう体の、気管とかが弱い子どもとか、そういった子どもは無理に使用しないで、強制的に使わせるんでなくて、何か行事のときとか、親とか先生方の判断でしたほうがいいときはしていただくというような感じで、強制的では考えておりません。

以上です。

○委員長（米本弥一郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 子どもたちに使う消毒液ですか、その件なんですけど、となりますと、そんなに量を使うことはないなというふうに思います。金額的にも到底50万円まではいかない、1万円も使わないような金額なのかなということが想像できますが、隣接市の同じような類似施設でどうやら感染があったときに、保育士の方が施設内全部アルコール消毒洗浄したということを知りました。僕もよく確認して調査しましたが、できればそういうような対策にこのアルコール洗浄液みたいなものを使えるという判断ができると思うんですが、その辺の見解と、ぜひそういう事態になった場合のときのために置き置きというか、買って置いてもらって、そっちのほうにも使えるようなアドバイスというか、そういう取組をするべきじゃないのかなというふうに思うんですけども、どのようになっているのか、伺います。

○委員長（米本弥一郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（石橋方一） ただいまの質問ですが、恐らく感染者が出た場合の施設の消毒のことだと思います。そちらにつきましては、この予算の範囲内で対応、もしくは予算をオーバーした分については施設のほうの負担ということで対応していくんですが、今回購入します消毒液につきましては、手指消毒剤、エタノール濃度68%ということで、各保育室、遊戯室等の入り口に、玄関もそうなんですけど、入り口に置いて、随時保育室に入ったりするときに、子どもたち、職員が手を消毒するというために購入するものでございます。それで、ただ、施設消毒をするときにその消毒液が使えるかというのについてはまたちょっと別の話になっちゃうんですが、もし感染者が出た場合は消毒委託業者のほうと協議して施設消毒をするということになりますので、その際にどういうアルコール消毒剤を使うというのはその都度協議になると思います。

また、子どもたちが帰った後、机、テーブルとか、ドアノブとかそういったのも常に掃除をしております。それについてはこのアルコールのほうでしますので、量的にただ手を洗うだけでなく、子どもたちが帰った後の掃除の分も含めてということで各施設へ21本ぐらいつつ購入するというふうに考えています。

○委員長（米本弥一郎） 林委員。

○委員（林 晴道） 最後にしますけど、よく分からなかったんですが、取りあえず伺いたいのは、子どもたちに直接消毒をするアルコール除菌液と、あとは物に対して使うアルコール除菌液ですか、その違いをちょっと教えてもらいながら、あとはそれに対して消費期限があるのかないのか。その中で、消費期限がないだとか、そういうことであれば、ぜひしっかりと各施設に対してそういう話をしてもらった中で満額の補助金を取っておいてもらって、いざ何かあった場合には最初に自分たちでできるような手だてを、話を詰めておくべきじゃないのかなと、そのように思いますので、見解を伺います。

○委員長（米本弥一郎） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（石橋方一） まずこのアルコールの消費期限ということですが、ちょっと詳しいことは分かりませんが、アルコールですので、やはり蒸発等が考えられると思うので、そんなに何年もということはないと思います。ただ、今回購入するものは一応補助対象ということで、3月いっぱい分までのものが対象となっておりますので、それで使い切れる分を各施設で購入するというところで考えております。

また、子どもたちが直接手指を消毒するものと机とかを消毒するものが同じアルコールなのかということにつきましては、同じアルコールを使ってもいいのかなと考えております。

あと、施設が施設消毒をするために予算を残しておけばということですが、それにつきましても感染者が出るかどうかというのは誰も予測が付きません。まず感染者を出さないため、感染の拡大防止のためにまずは消毒液とか、そういうのを用意しておくのがまず最初の対策方法かなと考えた上で、仮に出た場合はその時点で執行残を使いながら施設消毒のほうをお願いしていこうかと考えております。

あと、アルコールの消費期限ですが、未開封であれば約2年程度保存が可能だということだそうです。

以上です。

○委員長（米本弥一郎） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、議案第32号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

議案の採決

○委員長（米本弥一郎） これより討論を省略して、議案の採決をいたします。

議案第4号、旭市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（米本弥一郎） 全員賛成。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

議案第32号、令和2年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（米本弥一郎） 全員賛成。

よって、議案第32号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（米本弥一郎） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は随時報告をしてください。

子育て支援課長。

○子育て支援課長（石橋方一） それでは、その他報告事項といたしまして、海上保育所改築事業について、子育て支援課から報告いたします。

本事業は、第1回定例会において繰越明許費補正及び契約金額の変更の承認をいただき、

引き続き改築工事を執行してまいりましたが、工期の5月29日をもって各工事の全工程が終了し、完了検査を済ませております。

新園舎は木造平屋建てで、屋根は赤色、外壁はアイボリー色となっております。延べ床面積606平方メートルで、病気回復期の児童の一時保育のための病児保育室を新たに配置し、園児が生活する保育室及び遊戯室は窓を広く取ったため明るく、おいしい給食を提供する調理室、厨房には先進設備を導入いたしました。

また、新園庭は若干狭くなりましたが、今後、園児の運動能力や体力を養うための遊具の設置、防風・防砂のための樹木の植栽及び芝張り等の整備を行い、屋外保育の充実を図ってまいります。

以上です。

○委員長（米本弥一郎） 学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） では、学校教育課から再開後の小・中学校の状況について、ご報告をさせていただきます。

先月25日に緊急事態宣言が解除された後、市内の小・中学校は文部科学省から出された学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル、学校の新しい生活様式に基づき、6月1日から学校を再開しました。

1、再開の段階としましては、第1週を各学年2回の分散登校、第2週を一斉登校とし、給食提供、午前日課、第3週、6月16日からは通常日課としております。

2、部活動につきましては、来週の22日月曜日から活動時間を1時間程度とし、土日の活動は行わないという緩やかなスタートとしました。7月13日月曜日から通常の活動を予定しております。

3、夏季休業日につきましては、通常であれば7月21日火曜日から8月31日月曜日までですが、4月、5月に臨時休業期間もありましたので、7月21日から31日の間、8月24日から31日の間を短縮し、授業を実施することとしました。

以上でございます。

○委員長（米本弥一郎） 担当課の報告は終わりました。

それでは、ただいまの報告について、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

（「ありません」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、所管事項の報告を終わります。

請願の審査

○委員長（米本弥一郎） 次に、請願の審査を行います。

関係課以外は退室してください。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時26分

再開 午前10時28分

○委員長（米本弥一郎） 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る6月11日の本会議におきまして、本委員会に付託されました請願は、請願第2号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書採択に関する請願、請願第3号、国における2021年度教育予算拡充に関する意見書採択に関する請願の2件であります。

初めに、請願第2号について審査に入ります。

紹介議員であります景山岩三郎議員より説明をお願いいたします。

○紹介議員（景山岩三郎） 本日は委員長さんをはじめ、委員各位の皆さんには委員会大変お疲れさまでございます。また、今日、貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

それでは、説明いたします。

教育は国家百年の大計と申します。その観点から、私は義務教育費国庫負担制度の堅持が必要だと思っております。子どもたちの学びやすい教育が必要でございます。

この要望がありました団体は、千葉県市町村教育委員会連絡協議会、また県内の小・中・高等学校校長会、職員組合、そしてPTA連絡協議会、県教育界が一丸となって上げた請願でございます。

ぜひ今の教育制度の堅持をよろしく皆さんにご理解をお願いいたしまして、ご賛同をお願いしたいと思います。

終わります。

○委員長（米本弥一郎） 景山岩三郎議員の説明は終わりました。

続いて、担当課より参考意見がありましたらお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） それでは、第2号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書採択に関する請願でございますが、今回の採択を求める請願は、千葉縣市町村教育委員会連絡協議会、教育長協議会、県PTA連絡協議会、県小学校長会、中学校長会ほか、千葉県の教育界を代表する21団体でつくる子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体千葉県連絡会の会長名で採択を求められた請願でございます。会長は、市原市教育委員会教育長職務代理者であります。

未来を担う子どもたちの健全育成をつかさどる学校教育を充実させるためには、教職員の安定した確保が必要不可欠です。

その財源措置として教職員にかかる給与費の3分の1を国が負担する義務教育費国庫負担制度がありますが、この負担の割合も恒常的な措置ではなく、制度そのものが廃止される可能性もあります。さらに、事務職員、学校栄養職員の国庫負担を外し、一般財源化が模索されるなどの情報も聞かれております。

全国どこでも公教育は同じレベルで受けることができる基盤が、この義務教育費国庫負担制度であると考えます。

以上でございます。

○委員長（米本弥一郎） ありがとうございます。

ただいま担当課から参考意見がございましたが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

林委員。

○委員（林 晴道） この団体の要望、請願ですか、これ毎年ありますよね。それで、僕はこの内容、賛成でありますけども、このコロナ禍でわざわざ今年も同じような中身なんですけど、出す必要なかったんじゃないのかなと思います。2年に1回とか、4年に1回とか、そういう方向にしてもいいような中身ではないのかなと、僕は分析しますけどもね。去年との具体的な違い、それから近年の要望の傾向、それをちょっと明確に教えていただきたいなど、そのように思います。

あと、紹介議員に関して、僕、1回これに反対したことがあるんです。ちょっと議会のルールを逸脱した紹介の議員だったり、要望の提出だったりしたことがありますが、ぜひこれは、どうなんですかね、紹介議員、僕なったこと分かりませんが、充て職で文教の先輩議員、

景山さんのような人が適任だと思いますけども、そういう人がやるだとか、前文教の委員長さんがいたらその人に託すだとか、そういったような決まりをぜひつけてやらないと、やっぱりこんがらがることがありますので、その点、僕1回反対しただけなんで、一度これが言える機会があったら言わなきゃならんなどと思っていましたので、その点ちょっと明確に、紹介議員もいらっしゃいますが、教えていただけたらと思います。

○委員長（米本弥一郎） 林委員の質問に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 1点目の請願の内容につきましては、ほぼ内容的には変わりはありません。例年同じような内容でございます。

次の紹介議員につきましては、申し訳ありません、私ちょっと詳細を把握できておりませんので、お答えすることが難しいのですが、ご理解いただければと思います。

（発言する人あり）

○学校教育課長（加瀬政吉） その2年、4年に1回でいいかということですが、請願の性質上、毎年することによってそれだけ現場からの声があるんだということを伝えたいと、こういうふうに理解しております。

（発言する人あり）

○委員長（米本弥一郎） 他に質問はありませんか。

（発言する人あり）

○委員長（米本弥一郎） 景山岩三郎議員、紹介議員の件で。

（発言する人あり）

○委員（景山岩三郎） 委員会の長老がやるとか、1回委員長さんをやった人がやるとか。そういうルールをつくったほうがいいかなと私は思います。

○委員長（米本弥一郎） いいですか。

ほかに質問はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、続いて、請願第3号について紹介議員であります景山岩三郎議員より説明をお願いいたします。

○紹介議員（景山岩三郎） 先ほど申したとおりの意見でございますので、ひとつよろしくお願ひいたします。

○委員長（米本弥一郎） 景山岩三郎議員の説明は終わりました。

続いて担当課より参考意見がありましたらお願いいたします。

学校教育課長。

○学校教育課長（加瀬政吉） 請願第3号は、請願第2号と同一の団体のものからであります。

少人数できめ細かな指導の確立に向けた学校職員の定数を改善することは、児童・生徒の学力向上に直結することです。また、現在の経済状況等を考えますと、保護者の教育費負担の軽減に向けての取組、就学援助や奨学金事業に関わる予算の拡充を求めることは非常に重要なことと考えます。

特に、教科書無償制度は経済状況からだけではなく、教育を受ける権利がひとしく保障されていることから維持していかねばならない制度です。

また、大規模災害に対して安全・安心な学習環境を保障するため、学校施設のさらなる整備が必要と考えます。

そして、新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休校により、児童・生徒の安全・安心な学校生活への支援も非常に大切なことと考えます。

以上であります。

○委員長（米本弥一郎） ありがとうございます。

ただいま担当課から参考意見がございましたが、何かお聞きしたいことがありましたらお願いいたします。

林委員。

○委員（林 晴道） 誠にいい意見で、毎年同じような形ではありますが、学校整備だとか学習支援だとかということも今回この文面の中に入っておりますが、今現在旭市が施設整備だとか、そういうものが足りないとお考えの下でこういう文書を出してこられているのか、その辺に関して、僕は十分じゃないのかなと思うので、一度聞いてみたいと思っていましたので、お願いします。

○委員長（米本弥一郎） 林委員の質問に対し、答弁を求めます。

庶務課長。

○庶務課長（杉本芳正） では、学校整備、どのぐらい足りているのかというような形だと思いますが、現在大規模災害について大まかに工事のほうは、改修のほうはだいたい終わるのかなとは考えております。

あと、残っているという点ですけども、トイレの洋式化、あと非常用電源と、そういうのがちょっと足りないのかなというのが今の現状だと考えています。

私のほうからは以上です。

○委員長（米本弥一郎） ほかに質問はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、ここで執行部は退出してください。大変ご苦勞さまでございました。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時39分

再開 午前10時40分

○委員長（米本弥一郎） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き請願の審査を行います。

初めに、請願第2号についてご意見がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、請願第2号の審査を終わります。

続いて、請願第3号についてご意見がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、請願第3号の審査を終わります。

請願の採決

○委員長（米本弥一郎） 次に、討論を省略して採決いたします。

請願第2号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書採択に関する請願について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（米本弥一郎） 全員賛成。

よって、請願第2号は採択と決しました。

請願第3号、国における2021年度教育予算拡充に関する意見書採択に関する請願について、

採択とするに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(米本弥一郎) 全員賛成。

よって、請願第3号は採択と決しました。

以上で、本委員会に付託されました請願の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(米本弥一郎) ご異議ないようですので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

意見書案の説明

○委員長(米本弥一郎) 続きまして、ただいま採択と決しました請願が、本会議で採択された場合、意見書提出に伴う発議案を提案することになりますので、事前に準備をしたいと思っています。

事務局、意見書案を配付してください。

(意見書案配付)

○委員長(米本弥一郎) 初めに、請願第2号の意見書案についてご協議をお願いしたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○議会事務局長(花澤義広) それでは、請願第2号の意見書案について、ご説明いたします。

お手元に配付してございます義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書(案)、こちらのほうをご覧いただきたいと思っています。

意見書案を朗読して説明に代えさせていただきたいと思っています。

義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書(案)

義務教育費国庫負担制度は、憲法上の要請として、教育の機会均等とその水準の維持向上を目指して、子どもたちの経済的、地理的な条件や居住地のいかんにかかわらず無償で義務

教育を受ける機会を保障し、かつ、一定水準の教育を確保するという国の責務を果たすものである。

政府は、国家財政の悪化から同制度を見直し、その負担を地方に転嫁する意図のもとに、義務教育費国庫負担金の減額や制度そのものの廃止にも言及している。

地方財政においても厳しさが増している今、同制度の見直しは義務教育の円滑な推進に大きな影響を及ぼすことが憂慮される。また、同制度が廃止された場合、義務教育の水準に格差が生まれることは必至である。

よって、国においては、21世紀の子どもたちの教育に責任を持つとともに、教育水準の維持向上と地方財政の安定を図るため、義務教育費国庫負担制度を堅持するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣でございます。

以上でございます。

○委員長（米本弥一郎） 事務局の説明は終わりました。

それでは、ご協議をお願いいたします。

ご意見がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、請願第2号の義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書は原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） ご異議ないようですので、本意見書は原案のとおり準備を進めたいと思います。

続いて、請願第3号の意見書案についてご協議をお願いしたいと思います。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局長。

○議会事務局長（花澤義広） それでは、請願第3号の意見書案についてご説明いたします。

お手元に配付してあります国における2021年度教育予算拡充に関する意見書（案）をご覧くださいと思います。

意見書案を朗読して説明に代えさせていただきます。

国における2021年度教育予算拡充に関する意見書（案）

教育は、憲法・子どもの権利条約の精神にのっとり、日本の未来を担う子どもたちを心豊かに教え、育てるという重要な使命を負っている。しかし現在、日本の教育は「いじめ」、「不登校」、少年による凶悪犯罪、さらには経済格差から生じる教育格差・子どもの貧困等、さまざまな深刻な問題を抱えている。また、東日本大震災、原子力発電所の事故、さらに各地で地震や豪雨、台風などの大規模災害が立て続けに発生した。災害からの復興は未だ厳しい状況の中にあるといわざるをえない。

一方、国際化・高度情報化などの社会変化に対応した学校教育の推進や教育環境の整備促進、さまざまな教育諸課題に対応する教職員定数の確保等が急務である。

千葉県及び県内各市町村においても、一人ひとりの個性を尊重しながら、生きる力と豊かな人間性の育成を目指していく必要がある。そのためのさまざまな教育施策の展開には、財政状況の厳しい現状をみれば、国からの財政的な支援等の協力が不可欠である。充実した教育を実現させるためには、子どもたちの教育環境の整備を一層進める必要がある。

そこで、以下の項目を中心に、2021年度にむけての予算の充実をしていただきたい。

1. 災害からの教育復興にかかわる予算の拡充を十分にはかること
2. 少人数学級を実現するため、公立義務教育諸学校の教職員定数を改善する計画を早期に策定・実現すること
3. 保護者の教育費負担を軽減するために義務教育教科書無償制度を堅持すること
4. 現在の経済状況を鑑み、就学援助や奨学金事業にかかわる予算をさらに拡充すること
5. 子どもたちが地域で活動できる総合型地域クラブの育成等、環境・条件を整備すること
6. 老朽化等による危険を伴う校舎・ブロック塀の改築や更衣室、洋式トイレ、空調設備等の公立学校施設整備費を充実すること
7. 子どもの安全と充実した学習環境を保障するために、基準財政需要額の算定基準を改善し、地方交付税交付金を増額すること
8. 感染症に伴う臨時休校等により、児童・生徒が健康面・学習面で不安やストレスを感じるようなことのないよう財政措置を講じること

国においては、教育が未来への先行投資であり、日本の未来を担う子どもたちに十分な教育を保障することが、国民の共通した使命であることを再認識され、国財政が非常に厳しい状況の中ではあるが、必要な教育予算を確保することを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣宛てでございます。

以上でございます。

○委員長（米本弥一郎） 事務局の説明は終わりました。

それでは、ご協議をお願いいたします。

ご意見がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（米本弥一郎） 特にないようですので、請願第3号の国における2021年度教育予算拡充に関する意見書は原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（米本弥一郎） ご異議ないようですので、本意見書は原案のとおり準備を進めたいと思います。

なお、意見書の提出に伴う発議案の提出者につきましては、委員長名で議長に提出いたしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○委員長（米本弥一郎） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでございました。

閉会 午前10時52分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 米 本 弥一郎